

発行者のオリジナル名称がつけられます。

T I Oカーライフ通信



Info@知っとるカー：省燃費型エンジンオイル

一時期下がっていたガソリン代がじわじわと高くなってきて燃費が気になります。省燃費運転を心掛けても限界があります。そこで、お勧めなのが「省燃費型エンジンオイル」に変えることです。出光興産が行った燃費テストによると普通のオイルと省燃費型エンジンオイルでは、実に燃費が8.4%も改善されたというデータが公表されています。

それによると、普通のエンジンオイル(10W-30)と省燃費型エンジンオイル(0W-20)を05年式のステップワゴン2台にそれぞれ入れて、約3千9百キロ走行したところ、右表の結果になったそうです。リッターあたり1Kmも違うことになります。

運転の仕方や気象条件、道路事情などによって100%改善ができるとは確約はできませんが、データが示す限りでは、間違いありませんね。

| | 従来タイプ (10W-30) | 省燃費タイプ (0W-20) | 改善効果 |
|-----------|-------------------|-------------------|---------|
| 燃料消費量() | 339.6 | 313.3 | -26.3 / |
| 燃費(Km /) | 11.6 | 12.6 | 8.4 / % |

最近の新型車は燃費を良くするために、省燃費型のエンジンオイルが指定オイルになっています。この省燃費型エンジンオイルは、粘性抵抗が限りなく少なく、酸化安定性に優れたベースオイルを使用して製造されていて、厳冬期の冬場により高い効果を発揮します。オイルのグレードが「5W」や「0W」のオイルで、燃費が良く環境に優しいオイルです。特に、減免車両(自動車取得税、重量税の減額対象車両)に該当する最近の新型車の多くが、この省燃費型エンジンオイルが指定オイルになっていますので、意識して入れるようにしてください。



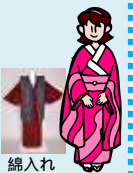
省燃費型エンジンオイルは、普通のエンジンオイルよりは少々高いのですが、その高さをすぐにカバーしてお釣りが出ます。

【衣替え】

この時期「クールビズ」のビジネスパーソンを見かけるようになりましたね。総裏のスーツにネクタイ着用だった服装が、季節に合わせて背抜きのスーツとノーネクタイに変身です。このように季節に応じて衣服を着替えることを「衣替え」と言います。この衣替えの習慣は、企業や学校の決まりとして気ままに行われているように思いますが、これは、日本古来の風習に根ざしているのです。

この衣替えは、平安時代に宮中の行事として始まったもので、当時は、旧暦の4月1日と10月1日に行われ、夏装束と冬装束が定められていた他、女房(貴婦人)が手に持つ扇も冬は桧扇(ひおうぎ=ヒノキ製)、夏は蝙蝠(かわぼり=紙と竹製の扇)と決められていたそうです。

江戸時代は、4月1日から5月4日と、9月1日から9月8日までは袷「あわせ」(裏地付き)を、5月5日から8月末日までは帷子「かたびら」(裏地なしの単仕立て)を、9月9日から3月末日までは綿入れ(表布と裏布の間に綿を入れた)の着用が定められ、年4回衣替えをしました。明治期になると、国家公務員にあたる人達の制服が定められ、現在のように夏服が6月1日～9月30日、冬服が10月1日～5月31日と定められ、学生服にもおよび、さらに一般にも定着しました。近年は個人の自由に任せるようになっていきますね。



扱い商品の紹介、営業案内などが入れられます。

発行者の会社名、住所、HPアドレス、アクセスマップなど入れられます。